

就労移行支援事業所見学記録

事業所名	いきものががり	クローバー	ちあふる	はちす園	ケア・センター
障害種別	知 <b>精多</b> い 身 発達	知 <b>精多</b> い 身 発達	<b>知</b> 精 身 <b>発達</b> (知的8割、発達2割)	<b>知</b> 精 身 発達	<b>知</b> 精 身 発達 (最近の傾向としては、知的・発達の若年者が多い。)
紹介経路	養護学校卒業生 相談支援事業所・利用者同士の紹介 医療機関	利用者同士の紹介	養護学校卒業生	養護学校卒業生 相談支援事業所(法人内)からの紹介	養護学校、一般校、だいち 相談支援事業所・医療機関、 ご本人やそのご家族
就労支援プログラム	本人・・・心のケアと意識を育てる 企業からの要望を聞く機会を作り、求められる人材として仕上げしていく 企業・・・理解を深める・現場指導	・移行利用者でプログラムを行っている お茶の出し方や名刺交換の意味など、学んだ後にお客様対応などで実践練習をしている	・移行の暫定支給の間にアセスメントを行い、B型スタートで移行に変更する流れを活用している ・マッチングを考えての実習(施設外就労)を活用	・利用半年間は体力づくりとアセスメント期間 ・ジョブカフェでの興味検査実施 ・施設外就労先でその後の就職も可能な企業有 ・法人内の事業所での実習	①基礎訓練(各作業プログラム) ②実施訓練(職場体験・実習、施設外就労等) ③求職活動支援 ④人材育成訓練(各プログラム)
就職者	年2名 3年で6名就職、内1名退職	4月1名就職年2名ペースで就職している	8名、内2名離職	毎年1～2名程度(退職者なし)	平成30年度実績 就労移行支援:11名 就労継続B型:3名
就職先	インターンシップ受け入れ先や就職先はたくさんある	本人の希望に合わせ、求人が出ていない場合には飛び込み営業で打診している	食品小売業、機械製造業、医療機関、運送業、派遣業など 計8社		食品小売業、機械製造業、医療機関、運送業、派遣業、福祉施設、衣料品販売、飲食店、清掃業など多数
定着支援	就職後6か月は支援をする。必要性に応じて、就職後しばらくは毎日訪問する事もある ジョブコーチ的支援も行う 就職後も事業所で行うイベントに招待をして、近況を聞いたり、利用者にとってもよい刺激をもらっている。	訪問して様子の確認をしたり、電話で聞き取りを行っている	・就労定着稼働予定 ・J Cと就労定着の支援の区別と活用の仕方を組み合わせて支援を行う	・就職後半年間の訪問 ・本人からの相談の電話 ・愚痴を言いたくなったら相談に来ることが多い	①就職後6ヶ月の定着支援 ②就労定着支援による支援 職場適応支援・就業生活支援のトレーニングを受けた職員が多数在籍しています
対応の課題	・個別支援計画を職員全員で意識し誰が対応しても同じような着地点になるように考え方の統一を図れるように職員会議を定期的に行っている。	・いろいろな作業があるので職員がまんべんなく見れない	・常勤5名・パート6名(施設外就労に1人同伴するため人員不足)	・求人を出しても応募者は少ない ・法人内の雇用率へのマッチング	職員のさらなるスキルアップ
その他	・時間をかけ、働く意図や意味を考えられるようになってから就職へ促している ・目標を持ってないと、すぐにやめてしまうが、じっくり育てることにより、退職者は出ていない ・仕事=作業+人間関係と考えるため、双方の仕上がり具合を見ている ・GHを運営する事で生活上の課題を把握できるようになり、それを就労移行支援に反映させている「自分のことだけ自分のために」という考えから、「自分のことだけ他人のために」という仕事をするための認識をもたせて就労につなげている。	・場所が狭くそれぞれが同時進行だが、利用者さんが自分の仕事に集中して取り組んでいる ・周囲と自分の評価に差があり自信のない人が多い ・会議の持ち方・・・金曜日PMと毎日夕方支援計画を回覧し全員で見る ・直Bアセス→H30年度3名	・元気で活気があるがにぎやかな環境 ・就職を目指せる日はいっぱいいるがメンタル面や社会経験が不足していて弱い	・Bと移行の利用者が同じ作業をしているも、見る視点は違う ・直Bアセス→今年度5名(帯2・幕3)	定員20名であるが、一年間で半数以上が就職し定着支援への移行が来ています。今後在職中のキャリアパス支援が重要となります。障がいのある方も含めた働き方改革も重要と思われる。